

収集はどう変わるか

国立環境研究所

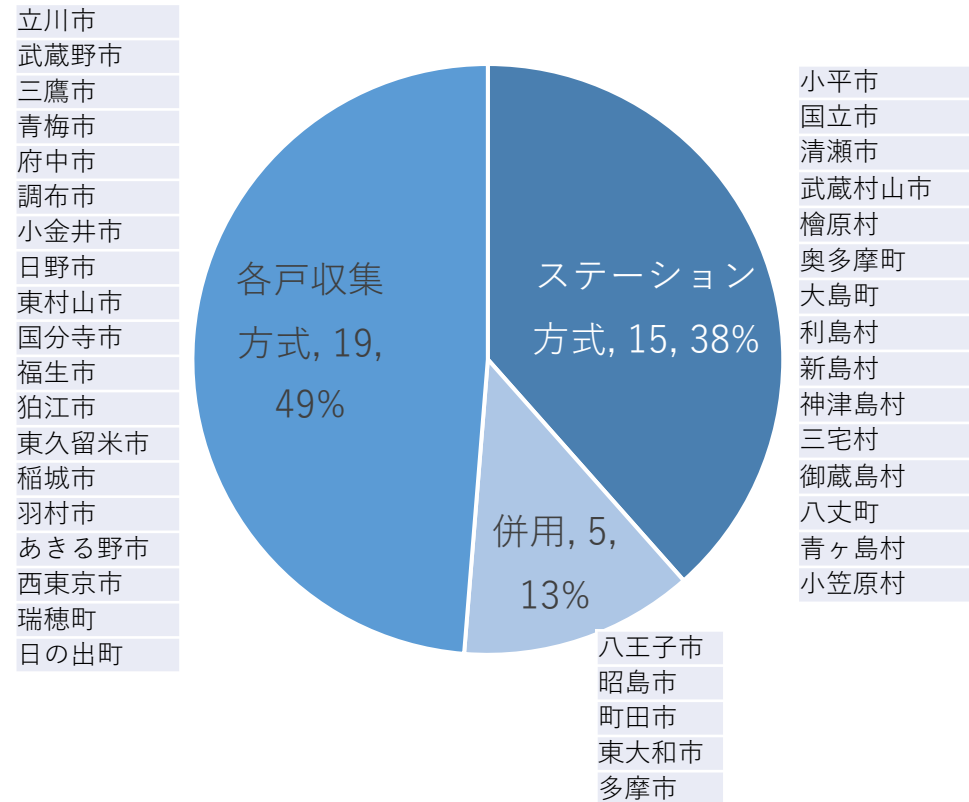
資源循環・廃棄物研究センター

鈴木 薫

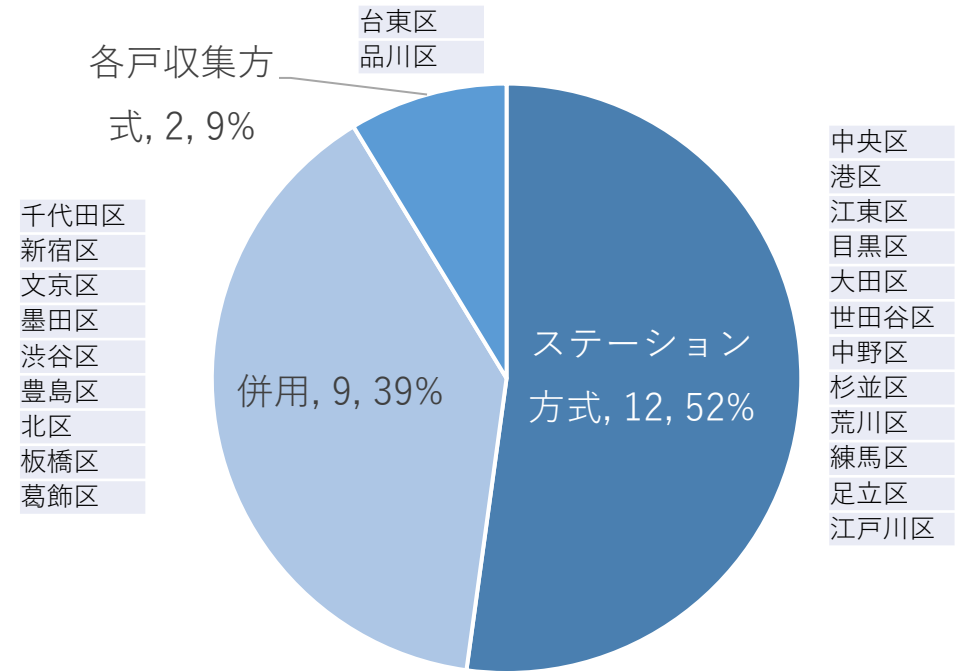
東京都の収集方式の変遷(1900年~1993年)		収集方式		
		各戸収集	併用	ステーション
1900年(明治33年) 汚物掃除法	施行規則第3条で各戸に蓋つき容器設置が義務付け、第5条で市に各戸からの収集を義務付け	○		
1941年(昭和16年) 汚物掃除法施行規則改正	これまで全てのごみ種を1つの容器に捨てていたのを、厨芥、可燃雑芥、不燃雑芥の三種類の容器に分けるようにした。		○ 厨芥はチリンチリンと鈴を鳴らすごみ車で収集	
1961年(昭和36年) ポリ容器による収集開始	厨芥のごみ車が来るまで時間が拘束されるという苦情や、町の美観の改善、各戸のごみ箱からごみを掻き出す非効率性の改善のため、ポリ容器による収集を開始			○ 20戸に1か所程度にポリ容器の集積所
ポリ容器を家に持ち帰る、洗う等の手間を嫌ってポリ袋で出す人が増加				
1973年(昭和48年) 可燃ごみ・不燃ごみの分別収集開始	これまで全てのごみ種を1つの容器に捨てていたのを、可燃ごみ、不燃ごみ(ゴム・プラ等)に分かるようにしてリサイクルを推進。			○
1986年(昭和61年) 紙袋でのごみ出しを容認	禁止されているごみを袋に入れて出す「袋だし」が目立ってきたため、清掃局は23日、紙袋なら袋出しも認める新方針を発表。			○
1993年(平成5年) 半透明袋でのごみ出しを義務付け	ビンやカンが入っていても中身がみえないことを理由に、黒のポリ袋を使用禁止に。			○

現在の東京都の収集方式分布（可燃ごみ, 2017年度実績）

市町村(n=39)



23区



東京都では市町村部で各戸収集方式への切り替えがすすみ、23区では併用の割合が増えている。

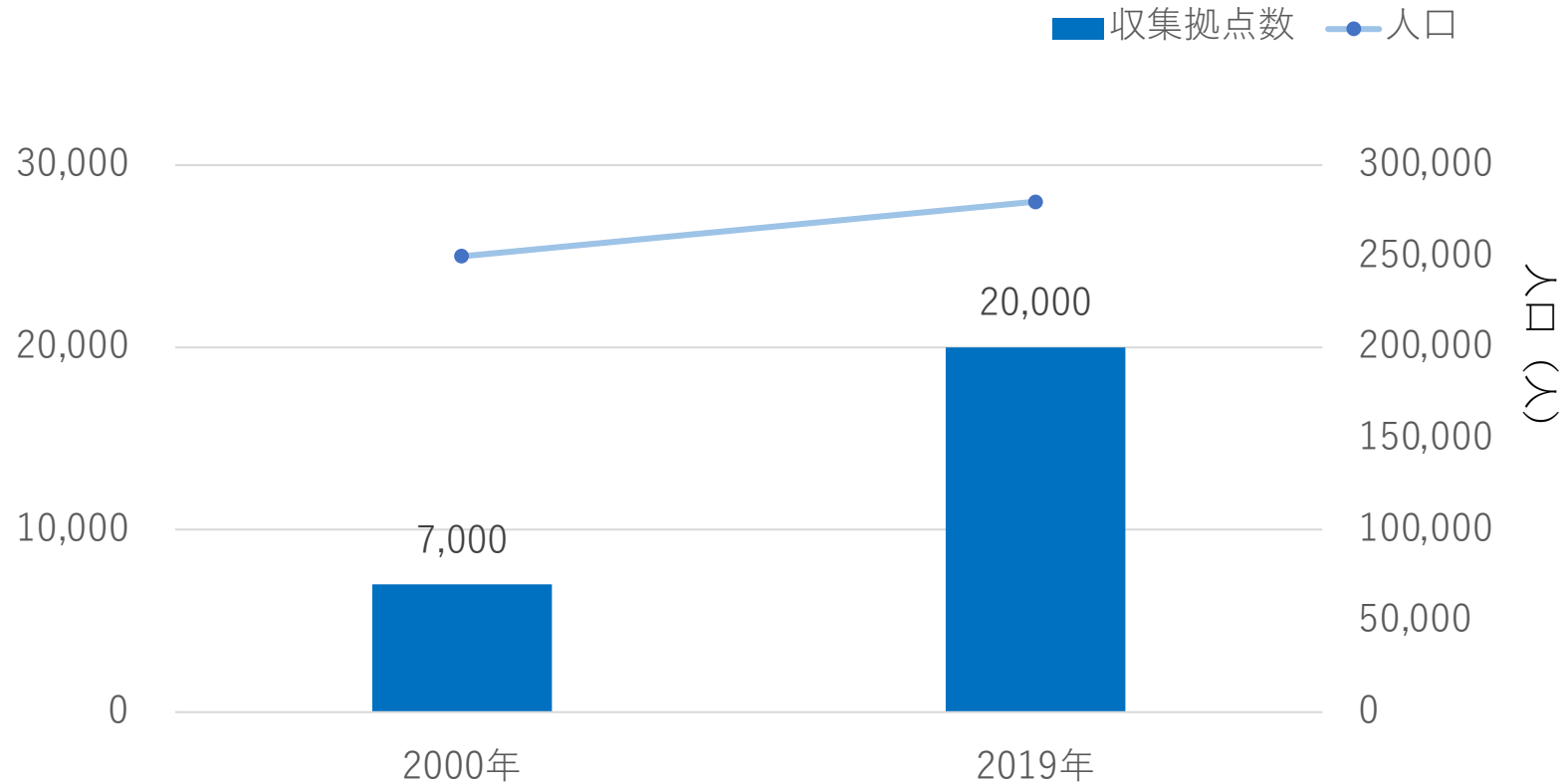
ステーション収集から戸別収集に移行する理由

市町村名	開始年	理由
小平市	平成31年4月から有料化・戸別収集開始予定	<ul style="list-style-type: none">ごみを出す人が明確になることによる、ごみ出しマナーの向上のため高齢者や障がい者など、集積所へのごみ出しが困難な世帯の負担を軽くするため道路上の集積所がなくなることによる、街の美観の向上のため集積所の管理に関わる市民の負担のばらつきを解消するため https://www.city.kodaira.tokyo.jp/shihou/057/057583.html
武蔵野市	平成16年10月から戸別収集開始	<p>ごみ集積所(ステーション)は、地域住民のかたのコミュニティの場であるという反面、</p> <ul style="list-style-type: none">利用するかた同士のトラブルルール違反のごみ出しや不法投棄カラス・ネコ等による被害管理の仕事が一部のかたに集中する <p>等の問題があり、これを戸別収集にすることで</p> <ul style="list-style-type: none">排出者が明確になり、ルール違反のごみが減少するごみ置き場をめぐるトラブルが減少するステーションに出したら終わりだったごみに対する意識が変わる <p>等が期待される。</p> http://www.city.musashino.lg.jp/kurashi_guide/gomi_kankyuu_eisei/gomi_dashikata/1004835.html
日野市	平成12年10月から有料化・戸別収集開始	<p>昭和44年に導入したダストボックス方式は、「24時間いつでも何でも出せる」市民にとっては便利な方法でした。一方、分別・資源化に不適當、設置場所周辺的生活環境が悪化、交通の支障になるなどの問題点がありました。</p> <p>戸別収集方式に変更後は、敷地内に出すことで、排出者が収集されるまで管理するようになりました。ダストボックスと違って目につくので、分別も徹底されるようになりました。とくに、資源物を戸別収集することにより、重い新聞などを拠点まで運ばなくてもよくなり、出しやすくなりました。</p> http://www.city.hino.lg.jp/kurashi/gomi/gomizero/kaikaku/1002959.html

ステーション収集の今

— 目黒区の場合 —

目黒区の収集拠点数



清掃事業が特別区に移管される

人口増は1割程度なのに対し、収集拠点数は3倍近くに増加。

収集箇所増加の要因

1. 2001年に開始した狭小路地対策での戸別収集の増加
2. 2010年に開始したごみの高齢者・障がい者等を対象とした訪問収集の増加
3. これまでごみ集積所の管理を担っていた高齢者がいなくなる。
→区としては地域住民に集積所の分散をお願いしたが、住民同士の話し合いがまとまらないなどで、結果として戸別に。
4. 戸建てが集合住宅に置き換わり、集合住宅専用のごみ集積所が増える。

狭小路地対策
の戸別収集の
様子

2019年8月27日鈴木撮影



狭小路地対策で廃止されたごみ集積所



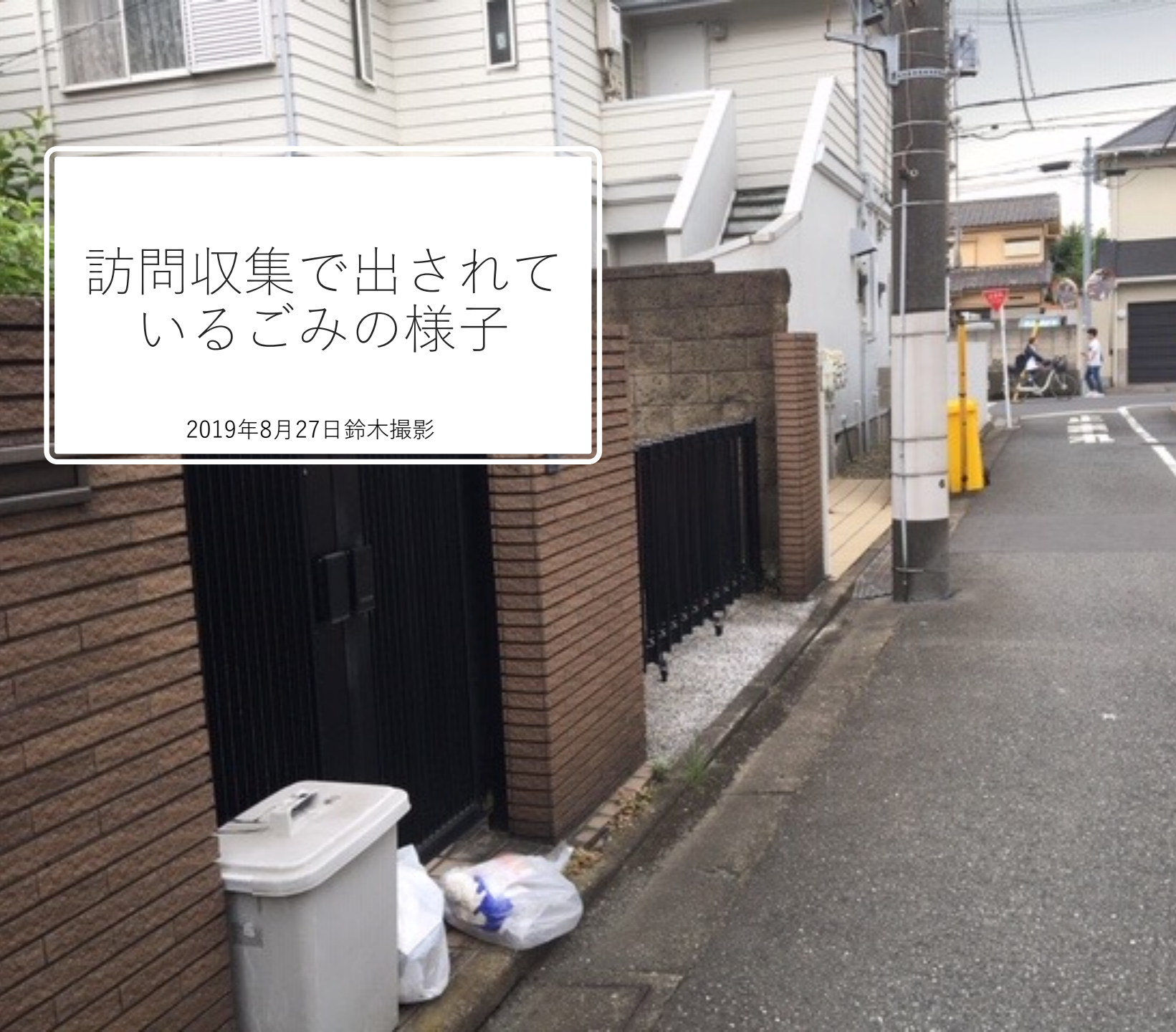
公園横の路地



高架下道路脇

訪問収集で出されて
いるごみの様子

2019年8月27日鈴木撮影



ステーション収集エリア
でも実質戸別化している
箇所

2019年8月27日鈴木撮影



目黒区の収集体制と今後の課題

- 市民から戸別収集にして欲しいという要望が多く寄せられているが、原則としてステーション収集を継続する予定。
- 収集拠点の増加→収集作業の負荷の増加
- 現在、目黒区の収集人員の7割が目黒区職員だが、現業職員が退職した後は補充はせず、雇上会社の人員を増やすことで対応。

(※車両は2割が目黒区所有、8割が雇上)

- 将来的には、普及啓発等を行う一部の職員を除き、収集作業にあたる人員は全て雇上会社になる可能性が高い。
- 今回調査では外国籍の雇上会社職員が収集作業にあたる様子もみられた。雇上会社では今後、外国人労働者に頼った体制にシフトしていくと予想される。
- 今後さらに労働人口が減少していくなか、収集作業員の確保と、長く働いてもらうために作業負荷を減らす収集手法の検討が課題といえる。



ごみ収集システムのオプション

求められる役割・機能

- ごみの収集
- ステーション等でちらかったごみの清掃
- 3R推進等の普及啓発
- 高齢者・障がい者のごみ出し支援
- 平常時の安否確認
- 災害時の安否確認
- その他？

運営体制

- 直営
- 民間委託（※東京都の場合は雇上会社）

収集拠点

- ステーション
- 戸別
- 併用
- その他？

収集拠点→収集車両への積み込み

- 日本人労働者
- 外国人労働者
- 機械化・ロボット
- その他？

高齢化・労働人口減少・財政悪化等をどのような形で乗り切り、収集システムを維持するか？